



立西巻き

尼崎市立立花西小学校
校長 笠井美香
2025. 4. 21 (月)
No. 4

[校長先生つぶやき、つぶやく (校長だより)]

忙しくてもやりきったこと ～連絡帳確認のすすめ～

最近、「対岸の家事～これが、私の生きる道～！～」というドラマにはまっています。(原作：朱野帰子「対岸の家事」(講談社文庫)) 生き方が多様化する社会で、自分の生き方が正解なのかどうか迷う登場人物達。何が正解か探索しつつ、前向きに生きる人達のセリフ一つひとつが、私自身の子育てを思い出し、心に響くのです。

我が子も、昨年、社会人となり、それぞれが巣立ちました。ですから、今やっと、自分自身のその時の親としての在り方について、振り返りもできます。当時は、家事、仕事、子育て、あれやこれやと忙しすぎて、へとへと毎日の毎日。ご飯食べさせて、お風呂して、洗濯物を干し、本を読み聞かせしたら、そのまま気絶状態。小学校入学後も、娘は「いいなあ。お母さん、先生やから勉強教えてもらえるやんって、友達に言われたわ。一回も教えてもらったことないのに。自分で頑張ってるのに。お母さん、おこってばっかやのに。ぷんぷん。」とよく言っていましたね。前号で「しっかり子どもの話を聞いてあげてください」といった私ですが……。

職業柄、どんなご褒美よりも、子どもにとっての一番のご褒美は、親が話をしっかり聞いてあげることだ、がんばりを認めてあげることだと、誰よりもわかっている。色んなご家庭の子育てを見ているので、自分自身の子育ての在り方に、これでいいのか……と思いつつも、改善する時間さえない。子どもと充分に話す時間さえなく、追われる毎日。息子が、児童ホームの帰りに、友達に草を食べさせた事件、友達の傘をふざけて裏返し壊した事件を起こした時には、もう、小学校生活お先真っ暗やな……と思いましたね。今となっては、笑えるエピソードも、当時は、大事件の連続。

時間に追われて、毎日、十分に話すことができないけれど、それでも、どこかで、我が子とつながることができるとは何か。私は、あなた達を大切に思っているということを伝え続けたい。明日も元気に、過ごして欲しいと願っていることを伝える方法……それは、すごく身近なところにありました。

そう。連絡帳です。連絡帳は、子どもと学校とおうちの人がつながるノート。私は、ここに目をつけ、保護者確認サインとして、毎日、子どもへひとことメッセージを書き続けました。読んでいるか読んでいないか、伝わっているのか伝わっていないかはわからないけれど……。「字がきたないで。慌ててるやん。大丈夫？」と書くと、次の日だけは、まともな字で連絡帳を書いてきます。字の書きぶり、消しゴムの跡、ちょっとしたいたずら書き。我が子の小さなサインをここで見つけることができるのです。どれだけ、自分が忙しくて気持ちに余裕がなくても、連絡帳だけはしっかりと確認し、サインを書き続けました。これが、卒業まで私がやりきったことです。これが、私が私の子どもへの愛を伝える 忙しくてもやりきったことです。どうぞ、一度、連絡帳の字を眺めてみてください。子どもの頑張りに気づくことがたくさんあります。

子育てに正解はないです。親としての愛の伝え方は、立花西小学校 460 人の子ども達のお家の人それぞれに、それぞれの方法があります。ドラマの人物達が互いの生き方や考え方を尊重し、前向きに生きる姿。子ども達の成長にとって、もがきつつも、親が懸命に生きる姿こそが、正解なのではないかと思うのです。